

ひゅーまん ねつとわーく

地域生活

2022年 1月 発行 / 第88号

社会福祉法人 北摂杉の子会

〒569-0071 大阪府高槻市城北町1丁目6-8 奥野ビル3F TEL 072-662-8133 FAX 072-662-8155 info@suginokokai.com



ジョブサイトひむろ 「クリスマスパーティーでいつものサンタクロース（玉野井スタッフ）」

左上：大東翔弥さん 左下：竹本良平さん 右上：そうぞう1G 右下：山田行雄さん、岡 大翔さん

更なる質の向上を目指して



社会福祉法人北摂杉の子会

理事長 松 上 利 男

皆様におかれましては、様々な希望を胸に、新年をお迎えになられたことと存じます。今年も引き続き私ども法人運営に対しまして、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、今年度、私ども法人では、法人第5次中期計画作成プロジェクト、キャリアパスプロジェクト、ICT（Information and Communication Technology：情報通信技術）プロジェクトを立ち上げ、若手・中堅職員を中心に活発に活動を進めています。

特に、来年度から始まる第5次中期計画の策定については、法人理念「地域に生きる」に基づき、新しいミッションとビジョンを策定しました。

新しいミッションについては、障がいのある人が尊重され豊かに「地域に生きる」を実現することを念頭に置き、「社会と人を変えていく、新しい価値の創造」と、そのことを成し遂げるための「社会に必要とされる人材の育成」を掲げました。

また、ビジョン策定については、私ども法人組織、職員に浸透している対人援助の基本的な価値を改めて確認し合い、その基本的価値を「杉の子マインド」という新たなビジョンを支え、実現していく土台と考えました。そして、その土台の上に新しい5つのビジョンを策定しました。

まず、私どもが大切にしている対人援助専門職の基本的な価値「杉の子マインド」は、次の五つです。

- ① ご本人のニーズに基づいた個別支援
- ② 特性理解とアセスメントに基づいた根拠ある

説明可能な支援

- ③ 権利擁護としての意思決定支援
- ④ ご本人を取り巻くご家族や関係機関への支援
- ⑤ ご本人のニーズに応えるために新たな仕組みを柔軟に創造する

そして、その土台から生まれたビジョンは、次の五つです。

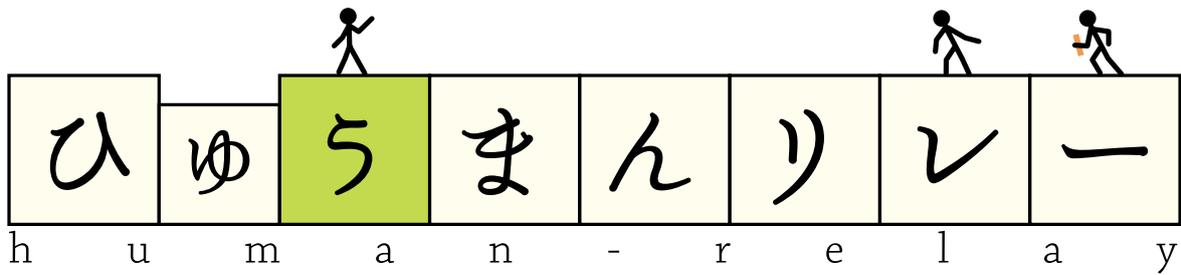
- ① 杉の子マインドの浸透：当たり前前の支援を当たり前前に
- ② 地域と共に：全ての人が生きやすい社会を
- ③ SUGINOKO BRANDの確立：枠にとらわれないニーズベースの新しいチャレンジ
- ④ 多様な働き方：働きがいも働きやすさも
- ⑤ みんなでつくる法人：戦略的で風通しの良い透明性のある持続可能な組織運営

今後、このビジョンをベースに具体的な計画に落とし込む作業を行っていきます。

また、現在活動しているキャリアパスプロジェクトで取り組んでいますキャリアパス作成についても、第5次中期計画に落とし込むこととなります。

プロジェクトメンバーが「職員としてありたい姿」を次のようにまとめています。

- ① 高い専門性と総合的な支援力を持っている
- ② 行政に働きかけ新しい制度を生み出せる向上心と着想力、実行力を持っている



障害児・者支援は世界を変える!!



<https://www.npo-largetto.jp>

特定非営利活動法人ラルゲット 理事長

にしお ひさし
西尾 寿士さんより

● はじめに

みなさま、初めまして。ラルゲットの西尾寿士と申します。この度は大阪市城東区の自立支援協議会・地域生活部会で共に活動している、あそーとの石原さんからバトンを頂きました。このような機会を得られたことに感謝申し上げます。

さて、簡単に私と障害のある人との出会いを語り、自己紹介します。約40年前に大学に入学した私は、養護学校に通う障害児の放課後ボランティアサークルに入部しました。そこで出会った小学生の女兒・重い知的障害と自閉傾向があるA子さんとの関りが私の原点です。小学生なのにバスに乗って遠い養護学校に通っていたAさんは放課後の遊び相手もおらず大学生の私たちがその代わりをしていました。バスから降りてくるとカバンを置いて、私はA子さんについて一緒に公園や街中を走り回りました。風がからだを吹き抜けて、嬉しそうに走るAさんの表情は今でも脳裏に浮かびます。どうして彼女には一緒に走ったり遊んだりする友達がいなかったのでしょうか。また私は、施設を出て地域で暮らす脳性麻痺や筋ジストロフィーの方のボランティア介護者も始めていました。制度が無かった時代に、生活の全てに介助が必要な障害当事者の挑戦は、まさに生きるか死ぬかの闘いでした。

障害者運動のリーダーであった楠敏雄さんが「障害からの解放ではなく差別からの解放が必要だ」と訴えるのを聴いて、当時の私は魂が震えました。人間解放というテーマに関心があった私は、障害者運動の世界に飛び込んでいきました。

● 障害児・者支援は地域や世界を変える活動

時代錯誤(?)の自己紹介から始まりましたが、私はその後も障害者運動や学生運動(反差別運動や反戦運動など)に没頭し、紆余曲折や大きな挫折を経て、現在に至りました。崇高な理想を掲げても、常に現実の生活に根差し、その具体的な改革・改善が無ければそれは空論であること、活動家が「普通の暮らしと感覚、人としての温かさ、賢さ、強さ」が無ければ、独善的な行為に走り、官僚的な組織になることを体験しました。

阪神・淡路大震災を契機に障害者支援の仕事に従事し、知的障害のある方の支援から多くを学ぶ機会を得ました。とりわけ、ピープル・ファースト運動は私に大きな衝撃を与えました。上に書いた楠敏雄さんは全盲という障害がありました。見えない世界のことは、当事者に聴かないと分かりません。点字という文字があることも教えてもらいました。では、知的障害の方からは、何を学んだの

でしょうか。それはあらゆる価値観の転換でした。学歴、能力、能率、美醜、真偽、善悪などの価値観をすべて見直し、考え直すことを突き付けられました。それは私にとってとても楽しい体験でした。人間存在を考える学びでした。しかし、施設長の仕事に就いた頃から、自分には人を育てる力はないし、支援が困難な方の支援をする力量もないと痛感しました。このままでは、進むことも退くこともできずにもがき苦しんだ私は、心理療法や臨床心理学に出会いました。

退職を決断して、新たに精神障害の方の支援施設で学びながら、大学院に進み51歳で臨床心理士の資格を取りました。大学院では素晴らしい先生方との出会いに胸が弾みましたが、同時に、こころを扱う専門職であるにも関わらずヒエラルキーやパワハラ的教育という負の面も体験しました。

でも私は全くめげずに自分の人生計画を進めてきました。スクールカウンセラーになった時に当時中学1年生だった長男の不登校という事態に直面しました。できる限り通学することを願った自分の無理解さを、長男から教えられました。学校で傷つき、苦しむ子どもたちの側に立ちたいと強く感じました。心理職を目指した私は、どういう訳かまた障害者支援の仕事に戻ってきました。ライフ・ワークなのだど覚悟を決めました。「福祉的支援と心理的支援の統合」、「誰もが自分らしく暮らせる社会・インクルーシブな社会の創造」を掲げて、ラルゲットを設立しました。それからもうすぐ8年目になります。

当法人の活動の特徴は、①**単独の相談支援事業所として開始したこと**。「どんなに重い障害があっても地域で生活することは可能だ」という信念を持ち、積極的に将来を見据えたニーズをアセスメントする力、支援を組み立てる力、地域の社会資源と繋がり切磋琢磨する力などを磨いてきました。

②**子どもの支援**（児童発達支援・保育所等訪問支援・放課後等デイサービス）においては、「社

会で生きるちから」を育むために、自尊感情や安心・安全感をベースにした関わりを心がけ、家族支援・地域支援に力点を置いています。③**成人の支援**（生活介護事業所サードプレイス・デイアクティビティーセンター）においては、様々な事情でどこにも繋がれない方たちが「ここなら居場所がある」と思える場の提供を心がけてきました。様々な障害・状態像の方が一つの場所に集まる難しさはありますが、麻雀や韓国語講座、クッキングや散歩、個別な関わりなど様々なアクティビティーを当事者と共に手作りしていく楽しさがあります。私は、この3つの事業とそれを支える裏方としての事務的業務を含めた法人全体の活動が、地域を変え、世界を変えていく活動だと考え、毎日ワクワクしながら相談支援専門員として走り回っています。

● おわりに

これまでのご縁であちこちの法人から声をかけていただき、私は現在4つの社会福祉法人の役員もしています。私自身の組織もそうですが、どの法人も世代交代や組織・運動の継続が課題となっています。『障害者運動のバトンをつなぐ』（生活書院 2016）という本の中で、熊谷晋一郎さんは、「(1) もう一度言葉を生み出す、(2) 社会モデルの不徹底、(3) 依存先の分散」の3点をあげています。かつて楠敏雄さんの言葉に魂が揺すぶられたように、私たちはこれから障害者支援の仕事に就く人たちに、どんな言葉を贈ることができるのでしょうか。それが私の宿題だと考えています。

これからも、北摂杉の子会さまをはじめ先駆的な支援実践に学びながら、ラルゲットのスタッフたちは質の高い支援を目指して地道な活動を積み上げていきます。そして5年後、10年後には、新しい社会のあり方を想像/創造するための確かな礎ができていくことを信じています。

地域に根づいた密着型の支援

訪問介護事業所 ころのとり

代表 ころ の かず ひと
河 野 一 人 さんより

はじめまして、事業所の代表を務めます河野です。このような、記事を書くことには慣れていないので、かなり戸惑っていますが、まずは、私が「ころのとり訪問介護」を立ち上げた思いをお伝えいたします。

私は、小学校5年生頃に母親を亡くし、近隣の方々に随分助けられました。そのことがあって、ボランティアや介護の事に興味を持つようになりましたが、周りの大人から手に職をつけた方が良いというアドバイスを受けたことで、工業高校に進学しました。しかし、子どもの頃「地域の人たちに助けられた」という思いがあり「いつか地域に恩返しをしたい」と強く思うようになり、高校を卒業後は、福祉系の専門学校に進み、施設介護・訪問介護を経験した後、2014年に障がいがあっても、高齢者になっても、地域で生き生きと暮らせるためのお手伝いがしたくて「訪問介護事業所ころのとり」を立ち上げました。

事業所は西淀川区にあります。近隣区である淀川区も含めた皆様の在宅生活でのサポートをする中で特に必要性を感じたのが強度行動障がいと言われる方への支援でした。

しかし、地域での暮らしをささえる社会資源の少なさに驚き、事業所を立ち上げた1年後の2015年2月には、行動援護事業の指定を取るとともに

ヘルパーに対する資格取得・育成に力を注いで参りました。その結果、現在では職員の中で、行動援護従事者有資格者は、社員も非常勤も含め31名となり西淀川区・淀川区だけではなく大阪市内でも、最大級の人数を抱えた行動援護事業所となりました。

2015年に私に対して、行動援護の必要性を強く感じさせてくれた青年との出会いは、今も忘れることのない大切な出会いで、その彼からは、強度行動障がいといわれる問題行動も、本人が安心できる地域で、本人の理解されにくい発信を、理解できる人が増え、そんな社会資源になることで、生活しにくかった地域の暮らしが、過ごしやすい暮らしに変わっていくこと気づかされました。

生活しにくいから地域を離れるのではなく、本人を理解できる人を地域で増やすことで、住み慣れた地域で生き続けることを、実現させる事業所になることを目標に「ころのとり」を運営し、現在に至っており、職員数も増え、有資格者も増える中、創業時より培ってきた事業所の大切な思いやノウハウを共有できるツールとして、事業所の思いがこもったルールブック手帳を令和3年に作成し、全員で共有しています。

また、利用者と地域を結ぶ媒介役になる役割があると考え、地域の各事業所、地域関係者との連

携にも積極的に取り組んでおりますが、令和3年度からは西淀川区地域自立支援協議会居宅介護事業所部会の部会長、淀川区では以前より淀川区地域自立支援協議会居宅介護事業所部会副部会長を務めながら、障がいがあっても、住み慣れた地域で自分らしく、生き生きと暮らすための情報共有・課題抽出・解決等に取り組んでおります。

このように、西淀川区・淀川区を中心に、障がい者の自立した地域生活をささえてきた我々こうのとりが、共同生活援助事業所「三津屋北ホーム」と何をきっかけに連携することになったのかについてお話をいたします。

こうのとりに最初に連携の依頼があったのは、西淀川区障がい者基幹相談支援センターからでした。利用者自身の障がいの特性や思い、家族の思い、今現在の支援者の状況などを伺い、共同生活援助事業所「三津屋北ホーム」へ本人が納得して入居できるよう支援をしていることを知りました。三津屋北ホームでは、共同生活援助という制度の枠を超えて、なによりも本人の気持ちに寄り添い、生活リズムが変わったり、いつもと違う環境に対して誰よりも緊張してしまうという本人の障がい特性にもしっかり寄り添いながら、少しでも変化を感じずに済むような配慮や、工夫をされていることを知りました。

障がい福祉サービスの内容が整備されてきて、サービス提供を行う事業所もどんどん増えていますが、三津屋北ホームの支援のように、一人ひとりの障がい特性に対応できるまでの制度にはまだまだなっていないことを目の当たりにしました。しかし、三津屋北ホームでは、制度の枠組みではどうすることもできない支援であっても、本人の自立、地域生活をささえておられる姿を見て、こうのとりにしても刺激となり、本人を取り巻く関係者として、社会経験を増やすことを目標に行動援護の支援からスタートさせて頂きました。本人との関係性を構築させている最中ではありますが、将来的には計画相談を受けていくことも検討しながら今後も、本人の親元からの自立を実現させるチームの一員として支援に参加いたしますので今後もよろしくお願い致します。

最後に、西淀川区・淀川区各区の地域自立支援協議会に参加しておりますこうのとりに致しまして、今回の三津北ホームでの制度を超えた支援について、このまま制度では認められない支援だからということで、三津屋北ホームだけの問題で終わらせてはいけないのではないかと考えています。西淀川区基幹相談支援センターの相談員と協力して、両区の問題ではないのかということ投げかけていくことで、制度だけでは支援しきれない現状を伝えていき、制度の見直しなどに繋がっていくよう協力していきたいと感じております。





ご利用者の体重増加の取り組み

～ 食べたいものをとことんお出ししたら、
体重が増加できました ～

レジデンスなさはら

支援員・社会福祉士 木^き村^{むら}嘉津夫^{かつお}

■ はじめに

皆さんは、昨日の夕食をどのように準備しましたか?自炊した人、家族が準備した人、Uber eats (食品宅配サービス)を頼んだ人など、いろいろな人がいらっしゃるでしょう。そして多くの人が、自分で何を食べたいか選ぶ、または人に食べたいものを伝えることをされたのではないかと思います。しかし、重度の知的障がいのある方の中には、自分の食べたいものを選択もしくは自分の食べたいものを人に伝えることが苦手な方がおられます。今回は、そのような方への支援について報告させていただきます。

■ ご利用者について

名前：Aさん(仮名)

年齢：33歳 男性(平成24年～レジデンスなさはら3番館で生活)

障がい名：自閉スペクトラム症、重度知的障がい

特性：見通しが立ち、活動の内容がわかっている自分のタイミングで行動できる

他の人の動きが気になるため、複数人よりも一人で過ごすことを好まれている

■ 支援開始前の状況

Aさんは、身長172cmに対して体重が48～50kgと少なく、毎年の健康診断でも「低体重に注意」との指示を受けている状況でした。その原因の1つとして偏食があります。特に毎日の朝食摂取量が安定せず、日によってはほとんど手を付けておられないこともあり、栄養補助のために、毎日液体の栄養剤を飲んでおられました。それでも体重増加にはつながっていません。

■ 従来 of 支援とその課題】

Aさんの食事に対する従来 of 支援は、次のような手順で行っていました。

- ①定時に職員が自室へ食事を提供し、退室する
- ②提供後20～30分程度のタイミングで、職員がお茶を1杯提供し、その時点での摂取量を確認する
- ③提供後1時間程で食事を下膳し、引継ぎ表に食事摂取量を「〇割」と記入する
- ④2食以上摂取量が1割以下となった場合、インスタント麺を1杯提供する

一方で、その支援には次のような課題も挙げられていました。

- 食事摂取量については、職員間で〇割という量のみ of 共有となっており、メニューごとに何を食べられているかなどは共有できていなかった。
- 野菜類など、あまり食べられないものは把握できていたが好きなもの等の「強み」に対するアセスメントが不足していた。

■ 実施した支援

Aさんの体重増加を目指し、前述 of 課題を解決するため以下 of 支援を行いました。

- ①朝食時に一定時間経過後も食事を始められていないときは、ご本人 of 好みと思われる冷凍食品やインスタント食品等を追加提供し、メニュー of 選択肢を増やし「食べたいもの」を選んでいただくようにする。
- ②ネットショッピングも活用し、ふりかけ等ご飯のお供を多種多様に準備し、いろいろな味 of ものをお出ししてご本人 of 好みを調査。

- ③業務用スマートフォン内のチャットアプリで、ご本人の食事摂取状況を写真撮影して共有。そのことで、メニューごとの摂取状況を職員間で視覚的に共有できるようにしました。



■ 支援結果

①ご利用者にとっての効果

- 意思を伝えやすくなった

冷凍食品やインスタント食品等の提供やご飯の味付けを変えた際に「それがきっかけになって追加したメニューはもちろんのこと、それ以外のものも食べられる」という日が多く見られました。そこから、ご飯がすすまないときのご本人の意思が「食べたくない」というだけでなく「食べ始める気分になれない」や「特に食べたいものがない」というケースもあるのではないかなと推測することができました。

- 支援者がご本人の好みを知ることができた

食事摂取量の記録より、辛口のカレーや食べるラー油を混ぜたご飯など、辛口の味付けのものをよく食べられるのを知ることが



ことができました。また、野菜類はあまり食べられないのですが、温野菜にすると食べられるなど、ご本人によって食べやすい、また食べたくなるような調理法や味付けがあることがわかってきています。

- 食べたい食べ物が安定して提供できるようになった

写真を使った記録により、支援者の間でご本人の嗜好が共有され、今回の支援開始前の朝食摂取量が4~5割程度だったのに対して、開始後は安定して7割以上食べられるようになりました。

- 体重が増えました

支援開始時の平成31年11月時点では体重51.1kgでしたが、令和3年3月には57.2kgまで増加。

それにより、毎日飲んでいただいていた液体栄養剤が不要となりました。

今では、液体栄養剤の時間を余暇として使用でき、好きなドリンクを一日一本飲んでおられます。

②施設、チームにとって

- 支援者の意識向上

食事摂取量が視覚的に共有できるようになったことで、自然と食事摂取量への職員1人ひとりの意識が高まっています。例えばAさんの食事の進みが悪い日に、過去の記録写真を見て、よく食べておられた際の食物や工夫をすることで、Aさんの気分が変わって完食されるなど、1人ひとりの職員の工夫がチームで活かされるようになりました。また工夫を活かすことで、新たな工夫をしようという意欲もわき、結果としてご利用者にとって食事をしやすい工夫がどんどん増えています。

- ご家族様の満足度向上

ご家族向けの満足度調査で「長年痩せすぎに悩んでいましたが、目標体重を達成することができました」とコメントをいただきました。チームで実施した支援が満足度の向上につながっています。

■ まとめ

今回の取り組みでは、食事が食べられないご利用者に対して「食べられるようになるために」という考えではなく「いつでも食べたいものを食べられるように」という視点に立つことで、体重増加という結果に結びつきました。ご利用者の意思を大切に、強みをみつけてそれを十分に発揮していただくということは、私たちの支援において最も重要なことの1つです。今回この取り組みを通じて改めてそれを認識することができました。



親亡き後、住み慣れた自宅で 生活し続けるために



生活支援センターあんだんて 主任
社会福祉士・精神保健福祉士
かけがわ
掛川 ちひろ



相談員・社会福祉士
精神保健福祉士・介護福祉士
すえくに ゆき
陶国 友紀

■ はじめに

生活支援センターあんだんて(以下あんだんて)は高槻市より委託を受けて、障がいのある方やそのご家族からの相談をうかがいながら、様々な情報提供や支援を行っています。

『親亡き後、子どもがどう生活していくか』

これはどの親御さんも不安に思っていることだと思います。「自分が元気なうちにグループホームや施設に」と希望される親御さんが多い中、重度の知的障がいがあっても、決定や意思表示が苦手でも、「自分の家で住み続けたい」とはっきり意思表示し、親亡き後も一人で住み慣れた自宅での生活を続けている方もおられます。ご本人が望む生活の実現のためにあんだんてがおこなった支援について報告させていただきます。

■ 支援の経過

事例は2つあり、自閉スペクトラム症かつ重度知的障がいのある方と統合失調症の方で、どちらも40代の女性です。また、高齢の片親との2人暮らしで親が金銭管理や家事を担っていたこと、自身の家庭をお持ちのごきょうだいがおられたこと、ごきょうだいが一人暮らしに強く反対されていたことも共通していました。

どちらの事例もまずごきょうだいの不安の解消を図ることからスタート。『障がい福祉サービスとは何か?』という説明から始め、手続きの代行も行いました。

また親御さんが亡くなった数日後には、ごきょうだ

い・支援者を集めて会議を行い、不安や心配事をお聞きし、支援者がそれぞれの立場から可能な支援を提案。支援者と顔を合わせられたこと、一人暮らしの生活を具体的にイメージできたことで、ごきょうだいの安心に繋がり、一人暮らしの理解を得ることができました。

その後は、市役所とのサービス利用の交渉やヘルパー派遣の依頼、日中活動先の見学に同行するなど、スムーズにサービスが利用できるよう支援しました。

『一人暮らしをする』という同じ目標に向かって協力し、それが達成できたことで、ご本人・ごきょうだいとあんだんてとの関係構築、またご本人を取り囲む関係機関の支援の輪ができ、一定生活が安定しています。

現在でも、あんだんては2~3か月ごとの訪問を継続しています。これは、緊急事態に即・手厚く介入できるよう、日頃から細くでも繋がっておくことが大切だからです。

■ あんだんての支援で生まれた成果

・一人暮らしが続けられていること

大きな病気・怪我や、火事・事故は起こしていません。近隣からの苦情や行方不明になること、ごきょうだいが駆けつけるような事態にもなっていません。

必要な薬を飲み、家事援助などのサービスを利用し、あんだんても時々訪問しています。

統合失調症の方は、日中活動はなく振込や手続き以外ほとんど家にこもっておられ、自閉症の方は、生活費を先々の分まで使ってしまったたり、工賃でキーホルダーや小物を買集めては捨てたりすることを繰り返してたり『なんとかならないか』と周りが思ってしまう部分もあります。しかし、一番大切な『他者に迷惑をかけることなく安定した生活』を自分のペースで送ることができています。

・住み慣れた環境で生活できていること

2事例とも、「自宅で住み続けたい」というご本人の希望とともに、環境の変化によって精神的に不調になることが予想されました。そのため、独居世帯の生活保護の家賃上限額への家賃の値下げ交渉、書類や申請手続きの支援など、同じアパートに住めるよう尽力しました。

また、場所が変わらないことで同じサービスを継続利用できています。ご本人をよく知るヘルパーや訪問看護の方が来てくれることは、ご本人にとっても、またごきょうだいにとっても安心でした。特に自閉症の方は同じ生活パターンを維持できることで安定しますので、ご家族の思い出に囲まれて、安心できる環境で生活することができています。

・ごきょうだいの理解が得られ、良好な関係性が築けたこと

2つの事例とも、前述したように、親御さんが他界した数日後に、ごきょうだい・支援者を集めて会議を行ったことが安心につながっています。また、家事援助の追加や、新たな日中活動先の提案、宅配弁当の手配など、具体的な生活をイメージできるようにすることも、ごきょうだいの安心に繋がりました。

そしてどちらの事例も、現在は、時々連絡を取り合い、ご命日やお盆に訪問するなど、ごきょうだいはほどよい距離感で関わってくれています。

・ご本人の変化・成長

親御さんに任せていたことでこれまで隠れていた

ご本人の力を発揮できるようになっています。

ご自分から支援者に電話する、市役所に一人で行く、銀行で家賃を振込むなど、言われなくても一人で済ませられるようになりました。

また、ご自分の生活や健康も意識し、それまで面倒だと避けていた調理にヘルパーさんと一緒に挑戦したり、金額や優先順位を考えて買い物したりするようになっていきます。

・他機関と連携して支援できていること

どちらの事例でも、一人暮らしの継続は、ヘルパーや訪問看護など、多くの機関の支援で成り立っています。ただ、それぞれがバラバラに動いては意味がありません。あんだんてを中心に、支援者間でご本人の様子を随時報告し合える関係ができているため、支援者も安心でき、ゆったりとご本人に関わることができています。

■ まとめ

どちらの事例も、親御さんが亡くなって1年以上が経過しました。この間、精神的な不調や入院、トラブルはなく一人暮らしを続けられています。目に見える大きな変化はあまりありません。今後トラブルや生活への支障が出てくることと思われそうですが、親という支えを失いつつも、安定して生活できていること自体が素晴らしいことです。

安定して生活できていることで、ご本人の隠れていた能力も見えてきました。考える、選択する、自分から行動するなど、意欲・行動力が増し、話し方からも力強さや自信を感じられるようになっていきます。また、ご本人が新しい支援を受け入れる柔軟さを持っていることもわかりました。それは、『住み慣れた自宅に居続けられる』という精神的な安定を支える土台があるからこそだと思います。その土台は、家族やたくさんの支援者によって築かれたものであり、それらを集約し、固めたのはあんだんての功績でもあると言えます。

ご利用者の意思表出支援と※大阪府モデル事業での発表 ～レジデンスなさはらとジョブサイトひむろの 連携した支援と外部への発表～



レジデンスなさはら2丁目
支援員
なかやま はるみ
中山 春美



ジョブサイトひむろ
支援員 保育士
まつもと さよ
松本 早代

【従来の状態・課題点】

ジョブサイトひむろ（生活介護事業所）とレジデンスなさはら（共同生活援助事業所）では、情報や支援案を共有しながらそれぞれ支援を進めていました。半年に1度の連携会議や連絡帳での情報共有だけでは、支援方法の統一がなかなか難しい状態であったので、ご利用者にとってあまり良い状況ではありませんでした。

■ レジデンスなさはらでの従来の状態 (コミュニケーションの面)

今回の事例としているのは、独特な言葉でタブレットで動画をつけて欲しいと要求をされるご利用者です。そのため、毎日入っているスタッフは何回も接しているので聞き取ることができますが、週1回程度のスタッフだと聞き取りにくく、ご利用者の要求に容易に答えることが難しい状況でした。その結果、「要求に答えてもらえなかった」との想いから、パニックになることが多くみられました。

■ ジョブサイトひむろでの従来の状態 (コミュニケーションの面)

欲しいものがあったとしても要求されることは少なく、ご自分で職員の机を開けて持って行ってしまわれたり、他のご利用者の机の上のものを使ってしまわれたりします。そのことで、トラブルに繋がる危険性が予見される状況でした。

【解決方法】

解決方法として、両事業所で※PECSを使用することにしました。

- ①まずはジョブサイトひむろからスタート。その後、既に導入していたBOOK式のPECSをレジデンスなさはらでも導入。実際のBOOKを見て、できるだけ同じようなものになるようにしました。

(ジョブサイトひむろで
活用しているBOOK)

(レジデンスなさはらで
活用しているBOOK)



- ②スーパーバイザーの児童精神科医の門先生からご指導いただくために、ジョブサイトひむろとレジデンスなさはらの職員と一緒に研修に参加し、それぞれ門先生にアドバイスをいただき、そのアドバイスを共有して支援につなげるようにしました。
- ③年2回の連携会議にてお互いのPECSの形式についても情報交換を行い、順次ステップアップしていくようにしています。
- ④両事業所共同で、大阪府のモデル事業での発表を準備することで自分たちの取り組みの振り返りを行い、支援のブラッシュアップへとつなげられるようにしました。

【結果】

- ①ジョブサイトひむろとレジデンスなさはらで同じ仕様のPECSを使用することで、ご利用者と職員が混乱することがなく導入することができました。
- ②スーパーバイザー研修に参加したことで、お互いに同じところに悩んでいたのがわかり、一緒に改めて学ことができ、支援方法の統一化も可能となりました。
- ③ジョブサイトひむろとレジデンスなさはらが連携を取ることで、ご利用者からの意思表示が1つから2つへと、どんどん幅が広がっていきました。また、グループ職員全員が参加することで様々な視点や支援方法の共有化ができています。
- ④ご利用者が職員の机を開け、ものを持って行ってしまわれることが少なくなり、カードで要求される頻度が増えてきています。今後も継続していき、様々なものや人、場面での般化を行っていきたいです。
- ⑤口頭よりも視覚的なやり取りの方が理解しやすいという特性を両事業所間で改めて共通理解することができました。また、PECSを利用することでご利用者の意思表示の幅も広がり、いろいろな可能性が広がっています。さらには、ジョブサイトひむろとレジデンスなさはらで連携を取ることで、たくさんの支援のアイデアが発信され、より良い支援につながっています。
- ⑥PECSの研修を受けたことで、必要に応じてそれを活用できるようになり、要求の度に混乱されていたのが1日数回程度まで減ってきています。

絵カード交換式コミュニケーションシステム(PECS)®

PECS®ってなに？

アンディ・ボンディ(Ph.D.)とロリ・フロスト(MS,CCC-SLP)によって開発されたコミュニケーション支援システムです。

PECSは6つのフェイズ(段階)から成り立っており、対象者が一枚の絵カードを“コミュニケーションパートナー”に渡すところから始まります。絵カードを渡されたコミュニケーションパートナーはすぐにその交換を要求として受け取り、要求を叶えてあげます。次に、絵カードの弁別(認識)を教え、そしてどのように文を構成するのかを教えます。さらに上のフェイズでは、対象者は修飾語を使ったり、質問に答えたり、コメントしたりすることを教わります。PECSの最優先の目標は機能

- ⑦これまでジョブサイトひむろの支援員が4人、レジデンスなさはらの支援員が8人とたくさんの支援員がかかわっていたこともあり、意見の統一があまり見られませんでした。しかし、連携会議でお互いの意見を共有することで、12人が1つのチームとして支援を行えるようになり、統一された支援をご利用者により多く提供できるようになっています。
- ⑧大阪府モデル事業での発表では、他の法人も同様の悩みがあることがわかり、今回の発表を通して「連携する際に困ったこと」「連携の工夫」などを実際にお伝えしたことで、他の法人から「普段から顔を合わせての情報交換を行ない、今後に繋げていきたい」という感想をいただきました。このように連携の大切さを伝えることができ、今回の発表を聞いたことが契機となり「連携会議」を開始された法人もあります。他法人の取り組みにつながる「モデル」事例となったことをうれしく思います。

【最後に】

今後もジョブサイトひむろとレジデンスなさはらで連携をとりながら、今回の取り組みのように当法人は勿論のこと、他法人にも情報を発信していきたいと思えます。ご利用者にとって良い支援となるように、ご利用者と向き合いながらいろいろなことにチャレンジしていきたいと考えています。

※「令和2年度大阪府重度知的障がい者地域生活支援体制整備モデル事業」

大阪府重度知的障がい者地域生活支援体制整備事業は重度知的障がい者に対応可能なグループホームを運営する法人等を養成し、重度知的障がい者の地域での生活を支える体制を整備することを目的として大阪府が当法人に委託して実施しています。

令和2年度はモデル実施、令和3年度からは3年の事業として実施しています。

的コミュニケーションを教えることです。

研究の中では、PECSを使っている中で発語が出るようになった生徒もいることがわかっています。音声表出機器(SGD)に移行する方もいらっしゃいます。PECSがエビデンスベースの介入であり、PECSの効果を実証する研究は沢山発表されており、増え続けています。今現在世界中で150以上の研究が発表されており、PECSの効果を裏付けております。

ピラミッド教育コンサルタントオブジャパン株式会社のオフィシャルホームページより抜粋 <https://pecs-japan.com/>



コロナ禍での遠隔訪問看護と 巣ごもり生活支援

地域医療支援部

部長・作業療法士 小林 哲 理

■ はじめに

令和2年4月7日、国において緊急事態宣言が出されました。先の見通しのつかない状況下で、多くの方が自宅での巣ごもり生活を余儀なくされ、訪問看護で支援している自閉スペクトラム症の20代男性の方も、感染不安から一時的に福祉サービスの利用を自粛。自宅での巣ごもり生活となりました。

はじめは、壁に穴をあけてしまうような混乱がありましたが、訪問時のプログラムやアイデアを活かし、充実した巣ごもり生活を送ることができましたので、報告いたします。

■ Aさんの紹介

Aさんは、20代前半の男性です。自閉スペクトラム症の診断があります。ご家族の構成はお父さん、お母さん、お兄さんです。お兄さんは就職で家を離れています。Aさんは、乳幼児期より多動で目が離せ無い状態で、言葉のコミュニケーションがとれず、見通しがつかないときはパニックになりました。地域の小学校に入学後、噛みつきやひっかきなどの他害があり、小学2年生から不登校になりました。中学は支援学校に。中高生時は、通学時間を短縮して、うまく学校生活を送ることができる時期もありましたが、激しい自傷が生じ、学校に行けない時期もありました。高等部2年時に当法人の相談支援事業所 wish に相談し、訪問看護を利用することになりました。卒業後は、生活介護事業所ふれっとなさはらに通っています。コロナが拡大するにつれ、通所を一時自粛しました。

■ 緊急事態宣言前までの訪問看護支援

訪問看護ではご利用者のニーズに沿って、その方に必要な様々なプログラムを提供しております。

Aさんには、1) 時間の過ごし方(余暇)のニーズ、2) 運動不足・体重増加解消のニーズ、3) 表出手段確保のニーズ、4) 言葉の理解促進のニーズがありました。プログラムとして、1) については、余暇の過ごし方の課題は自宅で時間を持って余すので、一人でできる過ごし方を増やしていくこと。具体的には音楽を聴いたり電車をみるのが好きなので、一人でパソコンやタブレットを操作して、YouTube動画をみること等を行っています。2) については、体重が増加しており、身体を動かす機会がないので、運動量を確保すること。具体的には散歩やバランスボール運動を行っています。3) については、伝えようとしていることが分からないことも多く、突然壁を叩く、蹴る、噛みつくなどの行動に出ることもあるので、代替的な表出手段の獲得を目指すこと。具体的には、タブレットのコミュニケーションアプリや絵カードを使用して、食べたいものの選択や要求の練習をしています。4) については、口頭では伝わりにくいので、写真や動画、絵カードを使用して、この先にあること(スケジュール)やこれから行うこと・手順等を視覚的に伝えて理解を促すことを行っています。

■ 巣ごもり生活のスタート

緊急事態宣言が出されてから、福祉サービスの利用を自粛し、Aさんは自宅で過ごすことになりました。

しばらくは、何事もなく過ごすことができていましたが、5月に入るとイライラが募り、壁を大きく凹ませてしまいました。お母様は、「今後の見通しを伝えることが漏れていた!」と思い緊急事態宣言の期限を一つの目安として「5月6日までは家でお父さんお母さんと過ごす。5月7日からふれっつに行くよ、トランポリンに行くよ、OT（作業療法士）さんが来るよ、茨木の教室に行くよ」とダンボールに写真を貼って見せて伝えました。生活の中に、訪問看護で取り組んでいることを入れ込んだこともあり、生活の見通しがついた様子で、その後は落ち着いて過ごしたとのこと。以下、取り組んだ活動ごとに具体的な過ごし方をご報告します。



■ 具体的なコロナ禍での過ごし方

1) 音楽と動画

訪問看護で余暇（時間の過ごし方）支援として導入したタブレットを使用して、音楽を聴いたり、動画を見たりしました。今の音楽のお気に入りは、パッヘルベルのカノンです。動画は電車の動画を好んでいます。タブレットの操作がわからなくなった際は、言葉では伝えられないので、選択ボードを家族にもっていきます。



2) 運動（散歩と室内運動）

散歩は毎週の訪問看護で取り組んでいました。巣ごもり生活では、天気の良い日はなるべく散歩に出ています。訪問看護の作業療法士との慣れ親しんだコースということもあってか、落ち着いて楽しめています。訪問看護の際は「自販機でジュースを買う」という オプション付きですが、試しに日々の散歩は「散歩→家に帰って→コーヒー飲む」と見せて伝えると自販機に固執せずスムーズに行けました。

散歩のときにはマスクを着用しています。当初は着用できなかったのですが、図のような資料で視覚的に提示すると着用ができるようになりました。また、家では外し、外出ときには着用するというようにし、帽子とセットでマスクを着用するようにしています。



次に室内運動です。外出が制限され、運動量は減少。室内で少しでも身体を動かせるようにふれっとなさはらで取り組んでいる運動と、訪問看護で取り組んでいる動画を見ながらのバランスボール運動を日課にしました。





3) 食べたい物の選択・要求

巣ごもり生活において、食べることは楽しみであり、重要な作業です。自分で食べたいものをカードで選択したり、チラシを自分から要求したり、簡単な調理も行いました。



チラシを持ってきて要求



4) 家の手伝い⇒手洗い・消毒の理解

お母さんが広報誌の配布の仕事を請け負っているのですが、巣ごもり生活の期間中、近所の分はAさんが配布しました。小学校のときは、近所の家のポストに大量の枯葉を入れるこだわりがあり迷惑をかけたのですが、成人になり仕事で広報誌をポストに入れることができるようになってきました。ポストへの投函も、行うことができました。

外から帰ってきたら消毒、手洗いです。玄関の下駄箱の上には、消毒液と「手を洗う」カードを常時設置し、帰ると手を差し出し消毒をします。その後、お母さんが「手を洗う」カードを見せるとすぐに洗面所に直行し手洗いをします。



5) コロナ禍での遠隔訪問看護

時間が来るとサッとタブレットの前に座ってスタンバイ。こちらからのオンライン電話に応答します。スケジュールを提示して、パズルをしました。一人でできて得意顔。その後、動画をみながらバランスボール運動を行いました。お母さんによると「久しぶりに先生のお顔を拝見できてテンションアップ!しばらくご機嫌でした♪」とのこと。プログラムはもちろん、生活のご様子も伺って生活上のアドバイスも行いました。



図で遠隔訪問看護を提示



遠隔でパズルに取り組む



遠隔でバランスボール

■ 考察

在宅生活を支える訪問看護は、個別のニーズを踏まえて、対象者の自立した生活を支援しています。新型コロナウイルス禍は特別な状況ですが、ご利用者がどんな事態でも生活し続けていけるように支援していく必要があります。

ご利用者にとって変わらない日常の生活が一番安心できます。コロナ禍の巣ごもり生活は、大きな変化ではありますが、訪問看護の枠組みを応用して活動を行うことで、Aさんは見通しがつきにくいコロナ禍でも落ち着いた生活を送ることができました。

今回の業務貢献賞の受賞は、何より、訪問看護の取り組みを理解し、訪問看護の枠組みを応用して生活に取り入れられたご家族の力があつたからこそです。ご家族とAさんに感謝申し上げます。



杉の子 いいね!

〇レッツ〇
クリエイティブ
アート!

当法人のご利用者には、様々な特技をお持ちの方や表現活動（絵画・詞・陶芸等）を行っている方がたくさんおられます。このコーナーでは、そういった活動を紹介しています。たくさんの読者に「いいね!」「共感した!」という想いを届けたいと考えています。

ジョブジョイントおおさか

缶バッジコンテスト



ご利用者コメント



毎年行っているJJ缶バッジコンテストは「働く」をテーマとしていて、私は絵を描くことが好きなのでイラストレーターにしました。新型コロナの中、最近流行っている妖怪“アマビエ”をオリジナルイラストで可愛くデザインしました。色彩も明るめに意識して良い作品になり、本物の缶バッジにまで選ばれて良かったです。



缶バッジ完成品



「働く」と良いことも悪いことも経験します。人によって違うその「良いこと」「悪いこと」は、降り積もり、自信となり、願わくは色鮮やかであってほしい。そして、私たち利用者にとってJobJointOsakaは、働くための最初の居場所です。少し(?)デコポコな私たちによりそってください、いつもありがとうございます。「働く」に繋いでくださる皆様に感謝を込めて。そんな想いを込めながら制作しました。



JJカレンダー完成品

スタッフコメント

ジョブジョイントおおさかでは、毎年オリジナルのカレンダーと缶バッジを作成しています。完成した缶バッジとカレンダーはご利用者や、日頃お世話になっている関係機関・企業の方にお渡ししています。缶バッジの作成では、ご利用者からデザインを募り、集まった作品の中から2種類をコンテストで選出して製品にしています。毎年、ご利用者の皆さんの個性あふれる素敵な作品が集まっています。

掲示板コーナー

(令和3年9月から令和3年11月まで)

法人事業部 掲示板

9月	行 事
1日	法人事業部管理会議
2日	医療連携推進室会議
10・24日	運営会議
6・21日	経営会議
10日	新人研修 メンタルヘルスケア・ハラスメントについて
13・24・27・29日	中期計画プロジェクト会議

10月	行 事
1日	医療連携推進室会議
4・18日	経営会議
6日	法人事業部管理会議
7・17日	中期計画プロジェクト会議
8日	新人研修 権利擁護、虐待防止について
8・22日	運営会議
22日	権利擁護虐待防止委員会

11月	行 事
3日	第133回理事会 第1号議案 ジョブサイトひむろ建替工事(1期工事)の入札スケジュールの件 第2号議案 ジョブサイトひむろ建替工事(1期工事)に係る公告事項の件
4・11・16日	中期計画プロジェクト会議
5日	医療連携推進室会議

11月	行 事
8・22日	経営会議
10日	法人事業部管理会議
12・26日	運営会議
14日	第134回理事会 第1号議案 ジョブサイトひむろ建替工事(1期工事)入札参加業者の決定の件 第2号議案 ジョブサイトひむろ建替工事(1期工事)に係る予定価格の決定の件 第3号議案 独立行政法人福祉医療機構からの借入の件
20日	令和3年度 第3回法人研修 ・業務貢献表彰の事例発表 「行動障害への取り組み」「コミュニケーションの取り組み」 ・キャリアパスプロジェクト報告 ・第5期中期計画プロジェクト報告・人権研修
27日	マイナビインターンシップ合同説明会
29日	第135回理事会 第1号議案 諸規則、規程類の改正の件 第2号議案 (仮称)レジデンスよど第2ホームの開設に向けての活動の件 第3号議案 令和3年度補正予算案の件 第4号議案 理事長職務執行状況報告の件 第5号議案 事業計画進捗状況の件
30日	第136回理事会 第1号議案 ジョブサイトひむろ建替工事(1期工事)請負契約に関する件

(河辺 記)

中期計画プロジェクト会議



ハロウィンパーティー

～@ふれっとなさはら～



飾りつけもご利用者さんに手伝っていただきました。



衣装チェンジもばっちりです。



おやつも美味しく召し上がりました。



マスクを着けることに成功!

楽しい外出に参加することが出来ました!

コロナ禍になり、マスクをすることが苦手だったご利用者さんが、定期的にマスクを着ける練習を重ね、見事先日マスクを着けてお誕生日外出に参加することが出来ました♪早くマスクなしの外出ができるようになればいいですね…。



優雅にモーニングを食べに行きました。

マスクをして外出に成功。



(野条 記)

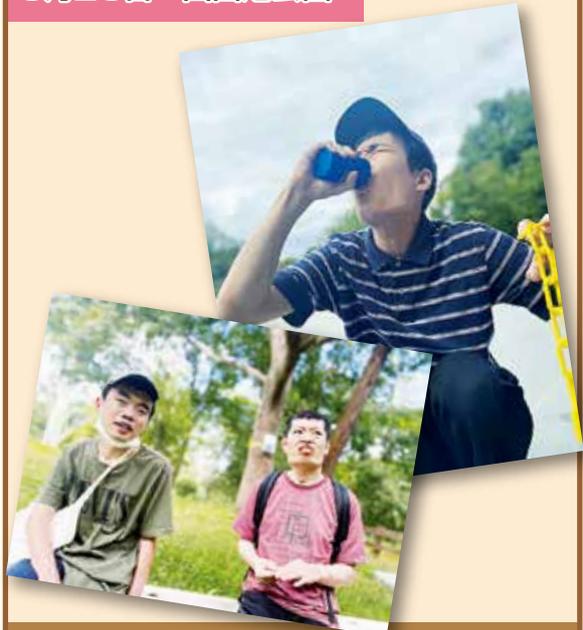
外出レクリエーション 続編◎紹介

9月21日 箕面大滝



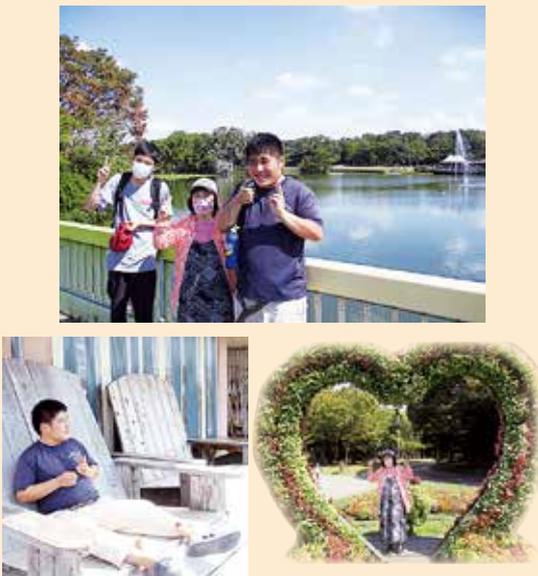
大滝までの道のりは険しい上り坂でしたが、滝を見
るとお辞儀をしたり手を合わせられる姿がありまし
た。動物にも出会い自然に触れる旅でした!

9月28日 山田池公園



公園内が広く、池や草花の景色を見ながら歩くとハ
イキングコースのようでした! 運動後のお弁当と
ジュースは格別に美味しかったです。

10月7日 長居公園



少し暑さが残る1日でしたが、公園内は人が少な
く開放的な空間でした*自然史博物館に寄り、館
内でのゲームにもチャレンジされました。

10月15日 万博記念公園



(河原 記)

アクトおおさか Topics!!

【公開講座（府民対象）のご報告】

11月13日（土）公開講座（府民対象）を開催しましたので、ご報告いたします。

今回は、信州大学教授の高橋知音先生にご講演いただきました。「発達障がいのある人の進路選択～高校卒業後から大学での支援について～」というテーマで、内容は高校卒業後の進路選択、大学入学後の学生支援、合理的配慮等についてです。WEBセミナーとして開催し、当日は217名という大変多くの方にご参加いただきました。

講演では、高校卒業後の具体的な進路先のご紹介があり、そのうえで大学進学を選ぶ意義や大学の選び方等について、お話がありました。

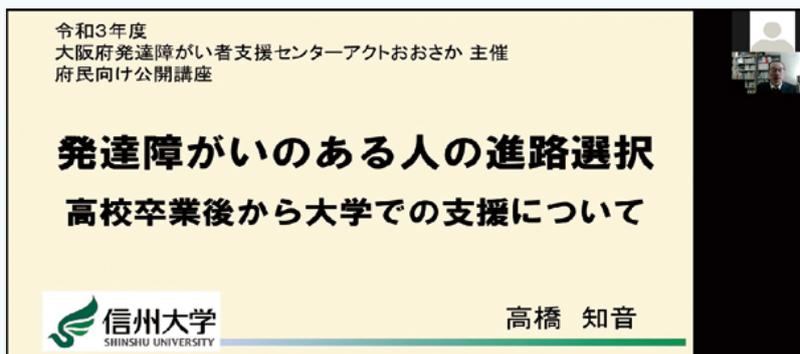
また、中学校や高校までに受けていた合理的配慮が大学で合理的配慮を受けるうえでの根拠になるというお話や、実際の事例についてもご紹介いただきました。

合理的配慮を受けるためには、ご本人から支援の意思表示をする必要があります。そのためにまずは自己理解を深めることや、自己決定できるスキルを身につけることが重要であり、さらに、大学入学前から周りのご家族や支援者をご本人の自己理解について一緒に考えていくことが必要というお話もありました。

受講後アンケートから、参加者の皆様にとって、非常に満足度が高い講演であったことが、結果として表れています（大変参考になったが約6割、参考になったが約4割）。ご家族からは「昔とは違う現在の大学での取り組みを知ることができ、視野が広がった」、「まずは子どもの得意、苦手と一緒に整理することから始めようと思った」といった感想が多く、支援者からも「将来、本人が自己決定をすることができるよう、今から自己理解を育てるサポートをしていきたい」といった感想がありました。

今回の講座は広く府民の皆様の学びの場となりました。高橋先生、ありがとうございました。

講演中の様子



高橋知音 先生

アクトおおさか スタッフ

児童発達支援部

a n



クッキング完成!いただきます!



たからさがし★



たからさがしのシート

a z



お友達と一緒に協力してカードを探したよ。



自分たちの好きなキャラクターについて話し合ったよ。



チョコレートを作ったよ。とても上手にできました。



全部のピンを倒せるように、しっかりと狙いをさだめました!

Link



家庭で使用する支援グッズ作り



親子でかるとりゲーム



早く取れてすごい!
拍手で上手に応援できました

will



ぐらぐらゲーム



ひっくり返し競争



ピンポン投げ



手順書を見てまごご

あゆみ



園庭でお芋ほりしたよ~!



お店屋さんごっこ
たこ焼きはいかがですか~!



トリック・オア・トリート!

(薬師寺 記)

ジョブサイトよど/ジェイ・ブランチよど掲示板

ジョブサイトよど



クッキング!



3種類の野菜を育てています!



コロッケ配達☆



セレクトランチ



創作活動! ハロウィン♪



創作活動! クリスマス☆



ジェイブランチよど

～ダイレクトメールのお仕事をしています～

宛名シールの郵便番号仕分け



たくさん仕分けます!

封入・宛名貼り



丁寧なお仕事ぶりです!



ふれいす Be 掲示板



芸術の秋



秋のおでかけ



食欲の秋



(松本 記)

ジョブジョイント (JJ) おおさか・ジョブジョイントおおさか -たかつきランチ- 掲示板

9月	行	事
4日	土曜クラブ/シュミラボ (OB会) 働くチカラPROJECT 就活のススメ#3 「コミュニケーション講座」	
10日	オンライン職場見学会 (ANA ウイングフェローズ・ヴィ王子株式会社)	
16日	避難訓練@ジョブジョイントおおさか	
25日	土曜クラブ/家族ミーティング しゃべくりラボ (OB会)	
10月	行	事
8日	JJカレンダープロジェクト会議	
9日	土曜クラブ/シュミラボ (OB会)	
13日	関西大学 学内プログラム #3 「自分に合った仕事を見つけよう」	
22日	避難訓練@たかつきランチ	
27日	しゅみナビ 10月開催 内部研修 「就労支援における心理検査の読み取り方+活かし方」池田浩之先生	
11月	行	事
6日	土曜クラブ/シュミラボ (OB会) 働くチカラPROJECT 就活のススメ インターンシップ報告会	
13日	働くチカラPROJECT 就活のススメ#4・ハジメ#1 「先輩の話・家族ミーティング」	
17日	AED講習会@たかつきランチ	
24日	しゅみナビ 11月開催 関西大学 学内プログラム #4 「自己PR」	
25日	障がい者雇用セミナー #2 「採用方法+事例紹介」	

(上口 記)

しゅみナビ

たかつきランチでは、新しく「しゅみナビ」というプログラムが始まりました。「しゅみナビ」は色々な趣味や経験を、スタッフがナビゲーションするプログラムで、月に1回開催しています。ご利用者の皆さんに色々なことを体験していただき、趣味や活動の幅が広がることで、就労した後の生活がより良くなればよいという想いから企画しました。事業所内で将棋や手作りのカードゲームで遊んだり、アスレチックに行ったりと、皆さんと楽しい時間を過ごしています!



アスレチックナビ



将棋ナビ

体験実習

(株式会社ドコモ・プラスハーティ様)

様々な企業で実習を行い、働く経験を積んでいただいています。今回の実習では、先輩や指導員の方に丁寧に指導いただき、様々な清掃業務を経験されました。ご利用者の方の自信につながる実習になり嬉しく思います。

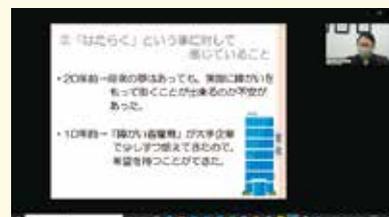
実習



企業研究講座

(株式会社 JR西日本あいウィル様)

企業に興味関心を持つことをねらいとしているプログラムで、月に1回程度実際の企業の方から直接お話を聞いて、様々な企業や業界について学んでいます。現在はオンラインで実施していますが、企業の方からお話を聞く回は、企業の方と直接お話ができるので、ご利用者の皆さんからも好評です。今回は、当事者の方が登壇されていて、企業のことや仕事内容の他にも、働く中で感じられていることなどリアルなお話を聞くことができました。



6周年を迎えました♪



おかげさまで、LaLa-chocolat は6周年を迎えました。いつもご愛顧いただき誠にありがとうございます。今後もご利用者の皆さんと一緒に、おいしいお菓子をお届けできるように努めてまいりますので、よろしく願いいたします。



ステップもハロウィンの飾り付けをみんなで作りました♪



今年もハロウィン&周年祭のイベントを開催しました! たくさんのご来店誠にありがとうございました!



他法人のクラウドファンディングに協力しました♪

いつもお世話になっている PleasureSupport 株式会社様が他法人と一緒に "Muga/MUchu" というスイーツブランドを立ち上げられました♪ 立ち上げにあたって取り組まれたクラウドファンディングにて、LaLa-chocolat のお菓子を返礼品として活用していただく形で協力しました。素敵なプロジェクトの立ち上げに協力させていただき、とても感謝です。

LaLa-chocolat からクラウドファンディングの応援をして、ブルドネージュを送っていただきました! みんなでおいしくいただきました♪



"Muga/MUchu" では本格的なブルドネージュづくりに取り組まれています。



Muga/MUchu さんのブルドネージュに加えて、LaLa-chocolat のマンディアンギフトとシエルギフトを返礼品としてお使いいただきました!



勉強会でそうじについて学びました!



みんなで勉強した後に、階段掃除・掃除機がけ・拭き掃除の練習をしました♪

秋の植栽もみんなで大張りしました♪



萩の杜家族会 掲示板

9月	行	事
	コロナ禍のため、イオン黄色レシートキャンペーン・安全対策委員会は中止 (イオン黄色レシートキャンペーンは関連店での買い物協力依頼)	
23日	サークル萩(今城塚公民館にて)	
27日	会長会会議(高槻市生涯学習センターにて)	
10月	行	事
	コロナ禍のため、イオン黄色レシートキャンペーン・安全対策委員会は中止 (イオン黄色レシートキャンペーンは関連店での買い物協力依頼)	
1日	重度高齢化対策プロジェクト(高槻現代劇場にて)	
7日	家族会定例会(高槻現代劇場206号室にて) ①重度高齢化プロジェクト進捗状況 ②安全対策委員会報告 ③コロナ対策について 他	
22・27日	茶話会(ぶれいすBeにて)	
28日	サークル萩(今城塚公民館にて)	
11月	行	事
	コロナ禍のため、イオン黄色レシートキャンペーン・安全対策委員会は中止 (イオン黄色レシートキャンペーンは関連店での買い物協力依頼)	
8日	会長会会議(高槻市生涯学習センターにて)	
10日	家族会親睦会(安満遺跡公園にて)	
18日	勉強会(高槻現代劇場206号室にて) 講師:レジデンスなさはら 平野施設長 ①グループホームについて	
25日	サークル萩(今城塚公民館にて)	

(飯塚 記)



10/27(水) 茶話会をぶれいすBeにて行いました。5名参加。普段仕事があり家族会の催しに参加しにくい会員さんや、市バスを乗り換え久しぶりに参加して下さった会員さんもいました。後見人の話、防犯カメラの話、障害者の認知症の話とざっくばらんにいろいろおしゃべりが出来てあっという間の2時間でした。10/22(金)にも茶話会があり、5名の参加でした。皆さんご参加ありがとうございました。



11/10(水) 親睦会を開催。高槻の安満遺跡公園の見学と食事会をしました。あいにく当日のお天気は雨十突風時々晴れと天候に振りまわされましたが、忘れることのない思い出深い親睦会となりました。悪天候の中参加して下さいました13名の皆さん、コロナ禍ではありましたが皆さんにお会い出来てとても嬉しかったです。ご参加ありがとうございました。



11/18(木) グループホームの勉強会。レジデンスなさはらの平野理事様より、お話をお聞きました。17名出席。地域の中にあるので、医療面もさまざまな病院を上手に利用していることがわかりました。ゲストの豊澤氏、山口さんのお話も実感がありわかりやすくよかったです。ひむろの皆さんが20名で立ち上げてゆく姿は萩の杜の建設に向っていく姿と重なり、よく頑張られたなあーと思いました。念ずれば花開く、そのとおりになりましたね。レジデンスなさはらの皆さんが全員、豊かに幸せに生活されているのが参考になりました。

ジョブサイトひむろ家族会 掲示板

9月	行	事
27日	家族会会長会（コロナ禍のため、中止）	
10月	行	事
6日	第2回役員会（高槻現代劇場206号室） <議題> ①法人状況報告（平野理事） ②ジョブサイトひむろ移転状況など（森田施設長） ③定例会開催決定（11月9日予定）	
26日	経営協議会（Zoomにて東会長出席）	
11月	行	事
8日	家族会会長会（生涯学習センター3F 東会長出席）	
9日	第1回定例会（高槻現代劇場305号室） <議題> ①法人近況報告（松上理事長） ②ジョブサイトひむろ建設計画状況（平野理事） ③ジョブサイトひむろ状況説明（森田施設長） ④家族会より（会計報告など）	
17日	後援会役員会（高槻現代劇場205号室 東会長出席）	

（升本 記）

ジョブサイトよど家族会 & ジェイ・ランチよど家族会 掲示板

9月	行	事
7日	9月定例会（JEC日本研修センター十三） 「コロナ禍での生活介護事業について」 「レジデンスよど三津屋北ホームの現場から」 法人出席：下部長、原田副部長、倉窪主任 ジョブサイトよど家族会：8名 ジェイ・ランチよど家族会：2名	
14日	ジョブサイトよどのGH（グループホーム）を検討する会 （ジョブサイトよど1階） 法人出席：佐々木理事、平野理事、下部長、原田副部長、倉窪主任 尾野建築設計事務所：3名 第2期グループホーム：7家族 世話人：永井	
27日	家族会会長会（開催中止）	
10月	行	事
19日	ジョブサイトよどのGH（グループホーム）を検討する会 （ジョブサイトよど1階） 法人出席：佐々木理事、平野理事、下部長、原田副部長、倉窪主任 第2期グループホーム：7家族 世話人：永井	
23日	ジョブサイトよど家族会、ジェイ・ランチよど家族会 合同役員会（ジョブサイトよど1階）	
29日	ジョブサイトよどのGH（グループホーム）を検討する会 （ジョブサイトよど1階） 法人出席：佐々木理事、平野理事、下部長、原田副部長、倉窪主任 第2期グループホーム：7家族 世話人：永井	
11月	行	事
8日	家族会会長会（高槻市立生涯学習センター） 出席：永井会長、玉木会長	
9日	11月定例会（淀川区民センター） 「施設の大規模改修工事と維持管理について」、「グループホームの課題と今後について」 法人出席：下部長、原田副部長 ジョブサイトよど家族会：15名 ジェイ・ランチよど家族会：4名	

11月	行	事
17日	北摂杉の子会後援会 臨時役員会 (高槻現代劇場)	
19日	ジョブサイトよどのGH (グループホーム) を検討する会 (ジョブサイトよど1階) 法人出席: 佐々木理事、下部長、原田副部長 第2期グループホーム: 7家族 世話人: 永井	

(永井 記)

ぶれいすBe家族会 掲示板

9月	行	事
	家族会行事なし	
9日	役員会 (参加者 10名) 感染対策対応のうえ 役員選出方法変更について カフェBe金券配付について	
10月	行	事
14日	役員会 (参加者 10名) 感染対策対応のうえ アンケート結果について文書配付 臨時総会開催について	
28日	臨時総会開催準備・案内文配付	
11月	行	事
11日	書面にての臨時総会 議題: 役員選出方法変更について 役員会 (参加者 8名) 感染対策対応のうえ 臨時総会議決結果配付 カフェBe金券配付 新役員選出実施について	

(大門 記)

自閉症スペクトラム児・者を支援する親の会 オアシス 掲示板

9月	行	事
3日	社団法人大阪自閉スペクトラム症協会主催・オアシス共催 会場: ドーンセンター 「障害のある人の防災、交通安全」堀 清和 氏 (兵庫医科大学) 会員限定動画配信	
6日	オアシス役員会 ミスタードーナツ十三店	
中旬	武庫川女子大学生による父親・成人の兄弟姉妹面接の調査協力 オアシス会員	
26日	JDDnet大阪エリア会議 会場: ドーンセンター 大阪府発達障害児支援状況アンケート実施、発達障害啓発週間のJDDnet大阪企画について 会長参加	
10月	行	事
2日	おやじの会 中止	
4日	オアシスサロン 中止	
9日	京都教育大学大学院学生による母親・父親面接の調査協力 役員	
26日	大阪市西区障害者児団体ネットワークそよかぜオンライン「あいサポート研修」3名参加	
29日	大阪府発達障がい団体ネットワーク会会合 会場: 豊中市地域共生センター 会長・事務局長参加 オアシスの活動報告と行事の案内	
11月	行	事
1日	オアシス役員会 ミスタードーナツ十三店	
6日~	ドキュメンタリー映画「僕とアウト」、映画「梅さらぬバカ」会員へ情報配信	
8日	大阪府ペアレント・メンター事業 「発達障がい啓発研修」として 四條畷市市民総合センターにて活動 会長参加	
17日	北摂杉の子会後援会臨時役員会 会長出席	
22日	谷岡とし子先生を囲んで一般公開座談会 会場: 梅田総合生涯学習センター 9名参加 テーマ「子どもたちの夢の実現に向けて私たちが出来ること」お子様の3年先、5年先、親御さんが望む少し先の将来について話し合い、谷岡先生からアドバイスをいただく	
27日	大阪府ペアレント・メンター スキルアップ研修&交流会 事務局長参加 会場: ドーンセンター	

(福田 記)



北摂杉の子会 後援会 掲示板



本会の活動に対して多くの方々や企業、団体、また法人家族会の皆様のご支援を頂き、誠にありがとうございます。今後ともより一層のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

11月末現在の増減・累計

個人：56名 団体：1 寄付：24名

資金 会費：734,000円 寄付：191,000円

合計：925,000円

<報告事項>

I 会員数の動態と資金について

	個人会員数	納入率	団体会員数	納入率	寄付
4月	477	(5%)	33	(0%)	0
5月	484	(21%)	34	(15%)	10
6月	526	(32%)	34	(18%)	2
7月	527	(36%)	34	(21%)	1
8月	531	(39%)	34	(21%)	0
9月	532	(42%)	34	(21%)	2
10月	532	(42%)	34	(21%)	0
11月	533	(47%)	34	(24%)	9

II 今年度11月末までに会費、寄付金合わせまして925,000円の資金を頂戴いたしました。

ご支援、ご協力に感謝申し上げます。

III 臨時役員会を開催（2021年11月17日）し下記の案件について確認。

1. 今年度の会員動態と資金の推移について

2. その他

- 各家族会の活動の報告
- 法人職員への加入依頼の報告
- 寄付金の振込についての確認
- 次回臨時役員会の開催予定

日時：2022年2月9日（水）14:00～15:30

場所：法人本部および zoom

（沖本 記）

寄付と後援会入会のお願い

社会福祉法人「北摂杉の子会」後援会の趣旨に賛同され、ご支援して下さる方々の寄付及び後援会への入会をお願い申し上げます。寄付金と後援会費は法人を支援するための資金とさせていただきます。

お振込みは右記口座まで。

既に今年度、後援会会費をいただいた方には重ねてのご案内になりますことを、どうかご容赦ください。

記

1. 寄付金(注)
2. 個人会員 年間一口 2,000円
3. 団体会員 年間一口 10,000円

郵便振込口座 北摂杉の子会
00920-8-90859

(注) 任意団体である後援会の領収書では確定申告の際に寄付金控除を受けることは出来ませんので、寄付金控除の出来る領収書をご希望の方は法人の下記口座にお振込み願います。

銀行名：三菱UFJ銀行 支店名 高槻支店 口座名：社会福祉法人北摂杉の子会

口座番号：5085555

～ 皆様の温かいご支援に
感謝いたします ～



- 法人へのご寄附に感謝いたします。(令和3年9月1日～令和3年11月30日)
植松芳哲 森田とよ子 棚山薫晴 玉木一彦 福田啓子 西井正美 成田みや子
伊丹産業株式会社 宵美代子福祉基金事務局 アスカグリーン間部成章
- 後援会入会と会費納入に感謝いたします。(令和3年9月1日～令和3年11月30日)
田口恵美子 田口恒子 岩成由佳子 福田江里子 田口真里子 永田泰士 永田啓子 永田健二 寺村善則
寺村有理子 遠藤一太 遠藤仁子 佐々木寛昭 有田和弘 住居昭文 棚山薫晴 棚山 妙 森谷弘雅
森谷薫美 森谷奈津美 山里将夫 西村伊一郎 藤田晴美 田村和子 笠原隆之助 笠原年子 吉田千代子
新川 彰 田部純史 強田純子 西坂徹雄 松上文子 本田利秋 嶋崎美樹子 本田英世 本田賀子
本田俊之 本田 聡 本田宏美 畑地福子 本田成美 行成章子 山口 博 山口秀子 今井俊介 八友 聡
中村俊介 羽根田司法書士事務所 神峯山寺 千里ハウジング株式会社 代表取締役 小山洋司
株式会社 いずみ商事 匿名3人
- 後援会へのご寄付に感謝いたします。(令和3年9月1日～令和3年11月30日)
紀平亜希 田口勝重 蘆田康子 北村憲一 田村和子 近藤順子 笠原隆之助 笠原年子 新川 淳
宮本東雨 大弘建設株式会社
- 家族会へのご寄付に感謝いたします。(令和3年9月1日～令和3年11月30日)
松岡洋市 矢橋 文 出口
- 家族会への物品のご提供に感謝いたします。(令和3年9月1日～令和3年11月30日)
菅野寿子 中村淑子 月岡
- 家族会へのボランティアに感謝いたします。(令和3年9月1日～令和3年11月30日)
佐々木映世

(敬称略 順不同)

発行人 社会福祉法人 北摂杉の子会
理事長 松上 利男
発行所 北摂杉の子会
住 所 大阪府高槻市城北町1丁目6-8
発行日 2022年1月31日

定価100円

施設住所一覧

- **社会福祉法人 北摂杉の子会 法人事業部 人材育成研修室**
(法人独自の公益事業〈研修・講師派遣・コンサルテーション〉)
〒569-0071 高槻市城北町1丁目6-8 奥野ビル3F
TEL (072)662-8133 FAX (072)662-8155
 - **障がい者支援施設 萩の杜** (施設入所支援・生活介護)
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1
TEL (072)699-0099 FAX (072)699-0130
 - **萩の杜 日中活動支援センターふれとなさはら** (生活介護)
〒569-1041 高槻市奈佐原2丁目4番25号
 - **萩の杜ショートステイセンター ぶれす** (短期入所・日中一時支援)
〒569-1054 高槻市大字萩谷14番地1
TEL (072)699-0844 FAX (072)699-0199
 - **グループホーム とんだ** (共同生活援助)
〒569-0814 高槻市富田町5-13-14 101号室
 - **レジデンスなさはら** (共同生活援助)
〒569-1041 高槻市奈佐原3丁目15番1号
 - **レジデンスなさはら2丁目** (共同生活援助)
〒569-1041 高槻市奈佐原2丁目1番8号
 - **レジデンスなさはらもとまち** (共同生活援助)
〒569-1041 高槻市奈佐原2丁目4番26号
 - **ジョブサイトひむろ** (生活介護)
〒569-1141 高槻市氷室町1丁目14-27
TEL (072)697-2234 FAX (072)697-2222
 - **高槻地域生活総合支援センター ぶれいすBe** (生活介護・就労継続支援B型・短期入所・日中一時支援)
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072)681-4700 FAX (072)681-4900
〈短期入所〉 TEL (072)681-4720
 - **生活支援センター あんだんて**
(指定特定相談支援・指定一般相談支援事業)
〒569-1131 高槻市郡家本町5番2号
TEL (072)681-4755 FAX (072)681-4900
 - **大阪府発達障がい者支援センター アクトおおさか** (発達障害者支援センター事業)
〒540-0026 大阪市中央区内本町1丁目2-13
谷四ばんらいビル10F
TEL (06)6966-1313 FAX (06)6966-1531
 - **児童デイサービスセンター an** (児童発達支援・放課後等デイサービス事業)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東1丁目1番6号
TEL (06)4862-5454 FAX (06)4862-5466
 - **こども発達支援センター will** (児童発達支援・放課後等デイサービス事業)
〒569-0071 高槻市城北町1丁目6-8 奥野ビル2F
TEL (072)662-0100 FAX (072)662-0056
 - **こども相談支援センター wish** (指定特定相談支援・指定障害児相談支援事業)
〒569-0071 高槻市城北町1丁目6-8 奥野ビル2F
TEL (072)605-1140 FAX (072)662-0056
 - **自閉症療育センター Link** (児童発達支援・放課後等デイサービス事業)
〒573-0032 枚方市岡東町24-10 アイエス枚方ビル3F
TEL (072)841-2411 FAX (072)841-2412
 - **こども発達支援センター az** (児童発達支援・放課後等デイサービス事業)
〒558-0003 大阪市住吉区长居2丁目4-1 サンテ長居1F
TEL (06)6654-8777 FAX (06)6654-8780
 - **ジョブサイトよど** (生活介護)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目4番2号
TEL (06)6838-7007 FAX (06)6838-7015
 - **ジェイ・ランチよど** (就労継続支援B型)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東2丁目3番10号
TEL (06)6303-9430 FAX (06)6195-3710
 - **レジデンスよど三津屋北ホーム** (共同生活援助)
〒532-0032 大阪市淀川区三津屋北1丁目9番6号
 - **ジョブジョイントおおさか** (自立訓練〈生活訓練〉・就労移行支援)
〒532-0023 大阪市淀川区十三東1丁目1番6号
TEL (06)6100-0150 FAX (06)6309-3007
 - **ジョブジョイントおおさか たかつきランチ** (自立訓練〈生活訓練〉・就労移行支援)
〒569-0072 高槻市京口町9番3号 関西産業ビル1F・4F
TEL (072)668-1123 FAX (072)668-1165
 - **すぎのご訪問看護ステーション** (訪問看護)
〒569-0071 高槻市城北町1丁目7-16 リーベン城北401
TEL (072)668-2670 FAX (072)668-2671
 - **発達支援あゆみ** (豊中市児童発達支援事業所あゆみ) (個別療育・障害児一時預り事業・単独通所)
〒560-0054 豊中市桜の町3丁目12番10号
単独通所 あゆみ
TEL (06)6841-1551 FAX (06)6841-9467
個別療育 カラフル・一時預かり りーふ
TEL (06)6398-7755 FAX (06)6841-9467
- 【法人自主製品店舗】**
- **「LaLa-chocolat (ララ ショコラ) /TAKATSUKI」**
就労継続支援B型
〒569-0071 高槻市城北町2丁目13番2号
TEL (072)668-5055 FAX (072)668-5081
営業時間：10：00～19：00(日・祝休み)

※■は行政よりの委託事業